

令和6年度学校評価 島根県立津和野高等学校						
重点目標 (生徒たちをどう育てるか)	目標達成のための具体的方策		評価のための指標	自己評価と次年度の課題(令和6年度)		学校関係者評価 (学校運営協議会委員意見) (令和6年度)
	担当部			評価	A:目標達成した B:ほぼ達成した C:達成までもう一歩であった D:達成に至らず検討を要する	
各教科の知識・技能(の育成)	教務	○家庭学習を充実させる。そのために、何にどれくらい取り組むか目標を設定し、生徒・教員間で共有し、その実現を目指す。 ○読書量の増加を目指す。	学習時間調査での目標達成率(同時に読書時間も調査する)	C	年度末の生徒、保護者向けアンケートの結果を見ても、授業そのものについて満足している結果であった。ただ、学習時間調査の結果やアンケート結果からも伺えるが、課外で学習をしたり主体的に学んだりする態度の育成については、まだまだ課題が残る。授業中に学びが完結するのではなく、課外でも宿題を取り組む以上のことのできるような構成を考えていく必要がある。 また、「学習」という言葉の場合、教科学習を想像することが多いが、読書等を含めた広い意味での「学習」に取り組ませることが、教科学習の学びにも繋がると思われる。「やらせる学習」も必要だと思うが、「自分でやってみる学習」に導く支援も必要だと思う。	○読書の時間が減っていることが心配である。デジタル人材育成は良いことだが、反面、「書く力」「読む力」の不足が心配になる。学校としての取組が必要ではないか。 ○IT機器の使い方を、生徒に考えさせることが大切である。 ○読み書きに関するトレーニングを入れる必要がある。
	進路	○適切な補習計画および模試計画をおこない、その実施後におけるクラス担任および教科担当から生徒へのフィードバックを通じて、生徒個々の進路実現に資する。	補習の実施実日数等	B	補習および模試については天候不順による延期を除き、年間計画どおり実施できた。模試結果について閲覧できるようにしているが、模試分析を職員会議等で提示するなど、生徒の学力把握や適切なフィードバックのために改善できることもあると考える。模試に関しては新課程になり平日1日と土曜日での実施が難しくなってきた。現状では平日の複数日を使って実施しているが、今後も実施方法については検討する必要がある。	
	第1学年	○基礎学力の定着 ・できる、わかる授業の実践 ・個人面談における状況把握 ・自主学習(平均120分/日)習慣確立	・学校アンケート、魅力科アンケート肯定的な回答が80%以上 ・学習時間調査(平均120分/日)以上	C	・学校アンケートより(生徒)「学校の授業を受けて、できること・わかることが増えている。」肯定的な回答が100%、(保護者)「学校では生徒の力を伸ばす授業を行っている。」肯定的な回答が95%であった。しかしながら、(生徒)「授業以外でも積極的に学習に取り組んでいる。」肯定的な回答が62%であり、自主的に授業以外で学習する姿勢を確立する点では課題が残った。また、(生徒)「学習時間」週平均7.6時間、と目標時間のほぼ半分であったことも課題である。 ・次年度、授業以外の時間も自ら学ぶ必要があることを理解させるところから始めたい。(中学時と比較して、学校の授業に参加していることで満足している生徒が一定数いると思われる。)	
	第2学年	○一人一人の生徒に向き合い、伸ばす指導 ・成績上位者に対する添削指導や、成績下位者に対する補習など、各成績層に応じた指導を行う。 ・個々の生徒の学力や進路希望について、学年会や進路検討会を利用して教員間の情報共有を行い、科目担当者と連携して学力の充実を図る。	・2年1月進研記述模試で3教科総合の全国偏差値60以上が5人以上(1年1月は1人)。 ・学年末で単位不認定者0人。	B	・1月進研模試3教科総合で偏差値60以上は1人であった(58以上だと5人)。授業、補習、個人添削等を通して上位者への意識づけはある程度できたと感じているが、部活動や探究活動とのバランスが上手くとれておらず、成績が伸び悩んでいる上位生徒も存在する。また、学校アンケートでは生徒からも保護者からも習熟度別クラス(進学クラス)を望む声があった。3年次ではクラスではなく各教科の授業を習熟度別や進路別で行うことや補習・個人添削をより充実させることでその要望に応えたい。一方、追認試験対象の生徒をはじめとする成績下位の生徒については意識を変えさせるには至らず、今年度末も単位不認定者が出る見込みである。 ・学年会(担任会)は年間で30回行い、担任間での情報共有の場を持つことはできたが、授業担当者との連携を密にすることが十分ではなかったことは今後の課題である。	
第3学年	○個人面談や進路ガイダンス、進路検討会等を充実させ、進路実現に向けて意欲的に取り組むことが出来るように支援する。 ○個人面談や学年会で学習状況の把握、学力分析を行い、科目担当者と連携して学力の充実を図る。	・家庭学習時間平均2時間以上。 ・個人面談を学期2回以上実施する。 ・生徒理解のための関係会議月を2回以上開催する。	B	・1年間を通して、定期的な個人面談(一人あたり各学期3回以上)を行い、生徒の進路実現に向けての支援ができた。 ・家庭学習時間は、家庭学習時間調査によると1日平均:198.9分と年度当初目標としていた1日120分を超えた。しかし、年度末学校アンケートの「授業以外でも積極的に学習に取り組んでいるか。」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は63%と今ひとつであった。 ・学年会議は年間で24回行い、教員間で生徒理解等の情報共有の場を持つことが出来た。学年会と科目担当者との連携を密にすることは十分に行えなかったため、今後の課題である。 ・年度末学校アンケートの「津和野高校に入学してよかったと思うか。」という質問に対し、94%の生徒が肯定的な評価をしてくれたことは、教員と生徒の信頼関係が築けていたこともその一因であると考えられる。		

令和6年度学校評価 島根県立津和野高等学校						
重点目標 (生徒たちをどう育てるか)	目標達成のための具体的方策		評価のための指標	自己評価と次年度の課題(令和6年度)		学校関係者評価 (学校運営協議会委員意見) (令和6年度)
	担当部			評価	A:目標達成した B:ほぼ達成した C:達成までもう一歩であった D:達成に至らず検討を要する	
社会人としての常識・判断力(の育成)	生徒	○生徒会活動などを通して主体性や協働する力を身につけ、「生徒のための学校」を自らの手で創りあげることができる生徒を育成する	学園祭アンケート(「満足」「概ね満足」で評価全体の80%を目標)年度末反省等	A	生徒会を中心として、主体的に学園祭をはじめとする各種行事に全校で取り組むことができた。アンケート結果からも、生徒・保護者とも満足できる肯定的な意見が大半であった。来年度も今年度をただ踏襲するだけでなく新たな試みにも挑戦させたい。また、校則の改訂を生徒会からの発案により行った。その際、生徒会からルールを遵守しようと発信を行うなど自治組織としての機能も果たした。	
	進路	○進路ガイダンスや面接講座などを通して、自らの社会との関わり方について考え、社会人としての自覚を促す。	面接講座後の振り返りアンケート等	A	今年度も数多くの進路ガイダンスを開催し、参加する生徒の進路意識の醸成に寄与することができたと思う。進路指導の「個別最適化」を目指し、きめ細やかな体験事業やガイダンスの実施をすることに関しては、今後も継続するべきであると考えている。	
	保健・人権・同和教育	○人権感覚とコミュニケーション能力を高めるために、人権教育HRを各学年年間3回行い、外部機関と連携を図りながら講演会や啓発活動などを年間2回行う。	振り返りアンケートの肯定的意見の割合が全体の80%を目標とする。	A	・人権教育HRを各学年年間3回行い、外部機関と連携を図りながら講演会や啓発活動などを年間2回行うことができた。 ・今年度の人権標語募集事業への参加については、夏期休業中の課題として全学年の生徒にGoogleフォームで提出してもらった。また、教職員にも標語を募集して教職員の人権啓発推進の一助とした。 ・生徒による年度末学校アンケートの結果より、「津和野高校での生活や活動は人権に配慮したものになっている。」という項目に対する肯定的意見(そう思う、まあ思う)の割合は94%であった。	
国内外の状況を的確に把握する広い視野(の育成)	進路	進路ガイダンスや進路HR等の適切な計画によって、生徒が様々な世界の存在に気づき、その価値観に触れ、「ふるさとを守る者」、「ふるさとをはなれて想う者」、「外に出て力を蓄え、ふるさとに戻る者」がバランスよく育つ進路指導を学年会と連携して目指す。	年度末の進路状況調査結果または進路希望調査	B	3年学年会と協力し、生徒のニーズに合わせた進路指導を行うことができた。県内進学や県内就職の生徒も複数あり、地域との関わりを経験し津和野に残る者や、離れた土地に進学しても津和野に関わってくれる卒業生が増えてきていると感じる。島根県の公立高校として、地域と共に生きる学校として、教育が地域や島根にひとの力を還元できるよう、津和野ならではの進路指導を今後も模索していきたい。	○2年の満足度が低かったという評価であるが、しっかりした取組であると感じる。
	改革推進	○探究的な活動を通して、協働的な課題解決の学び方を身につけるとともに、地域や社会・世界に対しての視野を広げ、自分らしく社会貢献し続けるための自己のあり方や生き方について考えさせる。	・魅力化アンケート ・年度末学校評価アンケート	B	年度末学校評価アンケート(生徒)で「将来社会のためになることをしたいと思う」に「思う」「まあ思う」と回答した生徒の割合90%。年度末学校アンケート(保護者)で「学校での学びを通して社会や世界に関心を持つようになっている」に「思う」「まあ思う」と回答した保護者の割合86%。振り返り、ルーブリックの活用、他学年を招いての発表会等、生徒の自己理解や思考力を伸ばすための活動を行った。「挑戦する、失敗する、発信する」を目標に、生徒がより主体的に活動するよう工夫する(3年生:Google Siteで自分史を作成、1年生対象のプリコラーージュゼミの実践、2年:サイクルを2回まわす、1年:年度末にかけてプリコラーージュゼミを実践)。「やってみたいこと」が他者への貢献につながる機会を作りたい。	
	改革推進	○主体的な探究学習を進めることができるよう、近隣の大学との連携授業を実施し、生徒の学習意欲、進路意識を高める。	・事後アンケート(大学教員、学生、本校生徒) ・卒業生に占める島根県内大学・短大の進学率(目標:R6卒業生5人)	B	R6の卒業生に占める島根県内大学・短大の進学率目標5人に対し実際は8人。大学訪問で「今回の大学訪問が、探究学習を進めるうえで役にたったか」に「とても役に立った」「まあまあ役にやった」と答えた生徒の割合96.2%。「大学訪問が自分の進路を考えるうえで役にたったか?」に対し「とても役に立った」「まあまあ役にやった」と答えた生徒の割合73.1%。県内に進学した卒業生が、津和野高校で進学先での学びについて紹介する機会を作りたい。	

令和6年度学校評価 島根県立津和野高等学校						
重点目標 (生徒たちをどう育てるか)	目標達成のための具体的方策		評価のための指標	自己評価と次年度の課題(令和6年度)		学校関係者評価 (学校運営協議会委員意見) (令和6年度)
	担当部			評価	A:目標達成した B:ほぼ達成した C:達成までもう一歩であった D:達成に至らず検討を要する	
自他の心と 身体の健康 を大切にす る姿勢(の 育成)	総務	○鍛錬行事における安全確保とお互いを思いやりながら強歩やサポートなどの役割をこなし、完歩者割合を前年度比較で増加させる。	行事後の各集計 実施後アンケート	B	昨年度の完歩率が94%、今年度が97%と数字上は高くなっている。完歩率を上げるという昨年度にならった目標設定であったが、大切なのは完歩率ではなく参加者の安全確保である。コース改定により安全確保については年々向上している。事後アンケートの回答での「安全面への配慮について」の意見を参考に道路上だけではなく、様々な場面で毎年一層の安全確保に努めていかなければならない。行事実施による生徒の達成感については多数が良好と回答している。	○100名近い寮生となるので、炊事員を増やすことはできないか。寮費を使って炊事員を雇うことはできないか。
	保健・人権・同和教育	○生徒が自他の心と体の健康に関心を持ち、自立した社会生活が送れるよう支援するために、健康管理への啓発活動を学期に1回行う。 ○豊かな人間関係づくりの力を高めるために、講演会などを各学年で年に1回以上行う。	実施後のアンケート等	B	・健康管理への啓発活動として学期に1回以上は保健だよりを発行することができた。 ・講演会を各学年で年1回以上行うという目標については、今年度1年生、3年生で実施することができたが、予算や講師の問題で2年生の実施ができなかった。来年度は全学年で年に1回の講演会実施を実現させたい。	
	寮務部	○食材の無駄が生じないよう寮生各自が食事調査に責任をもち、食べ残しを減らすとともに3食を定期的に摂取する食育の実践を行う。	食事調査、魅力化アンケート等	C	食事の過不足が出ないよう調査方法をオンライン化して予約状況の変化に対応しようと試みた。実態に応じて随時システム修正を重ねてきたが、毎週の調査への回答そのものの正確さを高めることが先決である。  (次年度に向けて) 食べることに對する自覚は食の過不足(食事調査)に数値として表れる。継続して指導する。	
	第1学年	○自己管理能力の育成 ・個人面談における状況把握 ・授業等を通じた自己表現能力の向上	・学校アンケート、魅力科アンケート肯定的な回答が80%以上	B	・学校アンケートより(生徒)「自己の健康管理がきちんとできている。」肯定的な回答が86%。(保護者)「教職員は生徒と適切にコミュニケーションをとっている。」肯定的な回答が90%。「教職員に悩みや相談を話せる雰囲気がある。」肯定的な回答が83%との回答から、生徒は自己管理の力を身につけつつあると判断する。 ・担任による個人面談を9回程度実施。必要な場合は学年主任対応も行った。 ・「総合的な探究の時間」を通して、「わからないことを人に聞くことができるようになった。」と振りかえった生徒が複数いる。 ・次年度、「できないこともある自分」を認めることに軸を置き、今後の前向きな行動につなげたい。	

令和6年度学校評価 島根県立津和野高等学校						
重点目標 (生徒たちをどう育てるか)	目標達成のための具体的方策		評価のための指標	自己評価と次年度の課題(令和6年度)		学校関係者評価 (学校運営協議会委員意見) (令和6年度)
	担当部			評価	A:目標達成した B:ほぼ達成した C:達成までもう一歩であった D:達成に至らず検討を要する	
各分掌等の 具体的目標 のうち、学 校重点目標 に該当しな いと思われるもの	総務	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事(学園祭・鍛錬行事・入学式・卒業式)などを通して、同窓会・PTA・地域と連携した津和野高校をつくる。</li> <li>○津和野高校の教育活動に理解を得られるよう、ホームページやInstagramを更新し、積極的な情報発信を行う。</li> </ul>	学校評価アンケート結果  学校評価アンケート結果	B	学校行事(学園祭・鍛錬行事)では在校生のPTAだけでなく卒業生や卒業生保護者のボランティアにご協力頂いた。同窓会や地域の方々からも来年度以降、協力したいとの声も上がっていることから、さらに連携を深める意欲はあると考える。さらに広く地域への広報活動が必要と考える。 ホームページ、SNS、PTA会報を通じた情報発信では、年度末学校アンケートで肯定的回答が89%と高い評価を得ている。来年度も積極的な情報発信をおこなっていきたい。	○生徒が主体的に寮生活を改善するための委員会を立ち上げたことはとても良いことと感じる。活発な活動を期待する。
	改革推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地元の中学生在が本校へ入学し、地域を支える人材として育ってくれるよう、オープンスクールや学校説明会等で働きかける。</li> <li>○本校がやろうとしていることを地元の保護者、地域、中学校の教職員に明確に伝える(学校説明会、学校運営協議会、学校訪問)。</li> <li>○県外の生徒が本校への入学に興味を持つよう、オープンスクールやオンライン説明会等で本校の魅力をしっかり伝える。○新時代に対応した学びを実現するための新しい普通科の設置に向けて、関係機関との連携協力体制の整備を行い、制度設計する。</li> </ul>	令和7年度新入生の人数(目標80人)  新普通科の設置	A	(自己評価) ・生徒募集:教員だけでなく財団や津和野町、そして生徒、卒業生及び保護者の協力を得て広報活動を行うことができた。生徒や卒業生のインタビュー動画、説明会での卒業生参加等、たくさんのアイデアをいただいた。オープンスクールでは第1回の反省を受け、第2回では生徒主体の活動を増やすことができた。町内での学校説明会も実施したが、参加者は少なく、今後改善の余地がある。 ・普通科改革:リーフレットを作成し、DX/ハイスクールと合わせ、学校が進もうとする方向やカリキュラムについて校外で説明することができた。また、先進校視察や企業及び関係者との協議を重ね、学校設定科目の授業計画を作成することができた。  (次年度に向けての改善) ・生徒募集:地域みらい留学の県外説明会は6、7月に力を入れる。津和野町内では、公民館での会合で学校説明をさせていただくよう公民館に依頼する。 ・普通科改革:地域及び校内での情報共有を進める。今年度作成した学校設定科目を含む、新学科でのカリキュラムを通じて、本校が育てたい資質・能力を育成することができるよう、校内研修会を実施する。	
	寮務	<ul style="list-style-type: none"> <li>○寮内の清潔を維持する。特に大浴場や脱衣場、洗面所やトイレなど清潔な水回りを維持する。</li> </ul>	魅力化アンケート等	C	(自己評価) 寮内の清掃が行き届いているとは言えない。清掃に対する課題意識を持っている寮生もいることから、掃除分担の組み替えをはじめ寮生ともに対応を考えて試行錯誤しながら改善につなげたい。  (次年度に向けて) 寮生が自分事として環境美化を意識し主体的に動けるよう、寮生代表との情報共有の場を活用したい。	